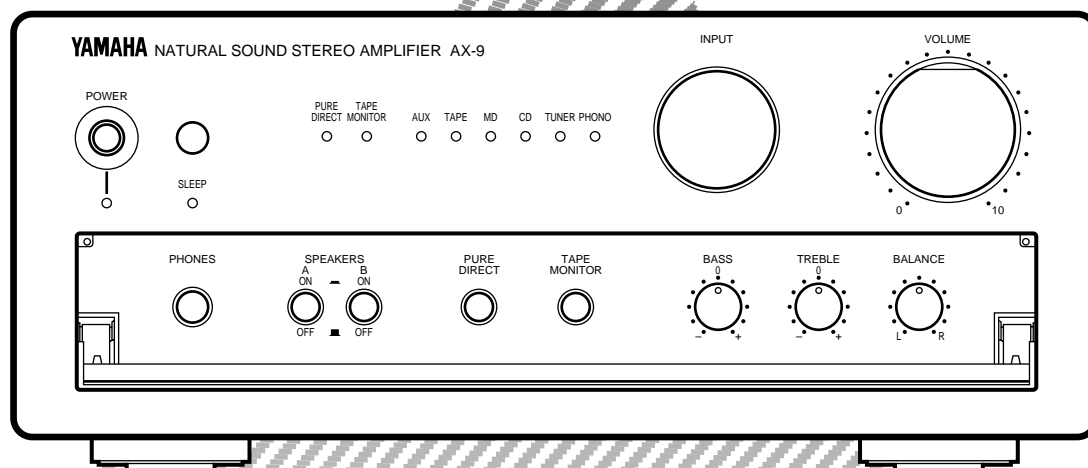


YAMAHA

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

AX-9

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプAX-9をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-9の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

安全上のご注意

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
	<p>本機に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。</p> <p>表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>		<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>水場での使用禁止</p> <p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なおいや音がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
ご使用になるとき			
<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>	<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>		
<p>分解禁止</p> <p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	<p>絵表示の例</p> <p> 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p> 記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p> 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>		



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。		接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。		
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。		指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。 ・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。		旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
			お手入れについて
	本機を設置する場合は、間隔をおいてください。放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。		1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

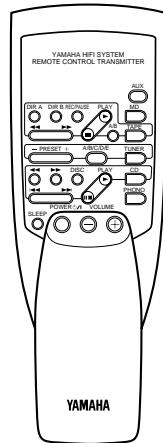
目次

安全上のご注意	2	操作のしかた（録音する）	12
ご使用前に	4	スリープタイマー	13
コントロールパネルの開閉	4	タイマー再生のしかた	13
リモコンについて	5	故障かな？と思ったら	14
各部の名称とはたらき	6	参考仕様	15
接続のしかた	8	ヤマハホットラインサービスネットワーク	裏表紙
操作のしかた（再生する）	11		

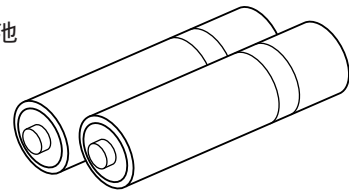
ご使用前に

付属品を確認してください。

リモコン



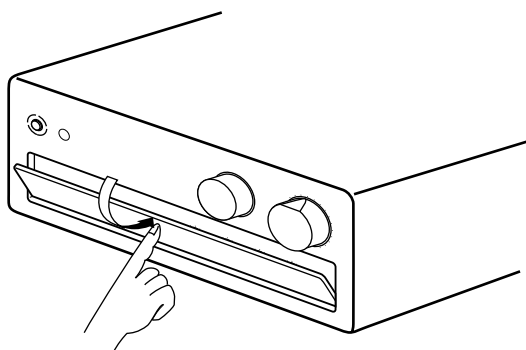
単3乾電池



コントロールパネルの開閉

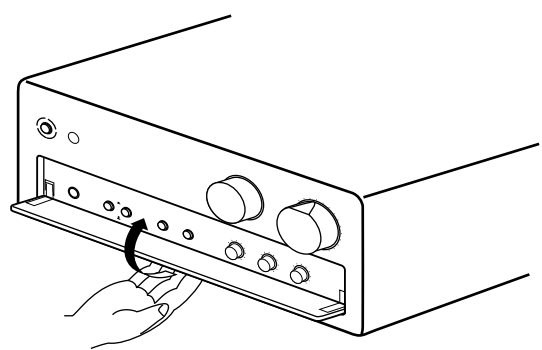
コントロールパネル上のキーを使用しない場合は、パネルを閉じておくことができます。

開けるとき



コントロールパネルの下側を指で押すようにして開けます。

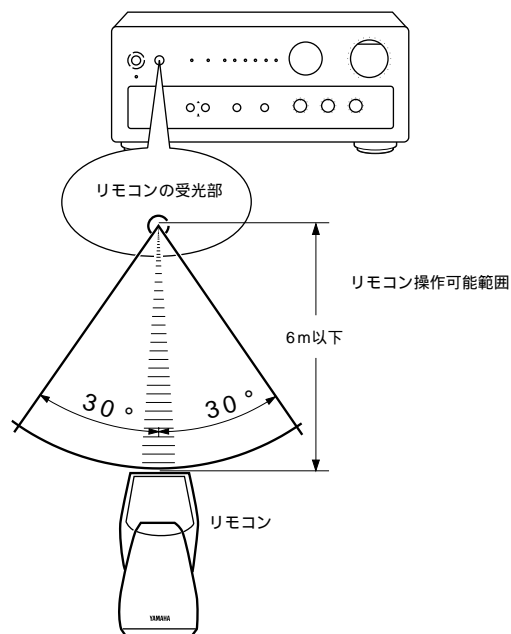
閉じるとき



コントロールパネルを下から上に持ち上げるようにして閉じます。

リモコンについて

リモコン信号は直進性の高い赤外線を使っています。リモコンと本体受光部の間に障害物を置かないようご注意ください。



誤動作について

本機のリモコン操作によって他の機器が誤動作する場合は、その機器の設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください

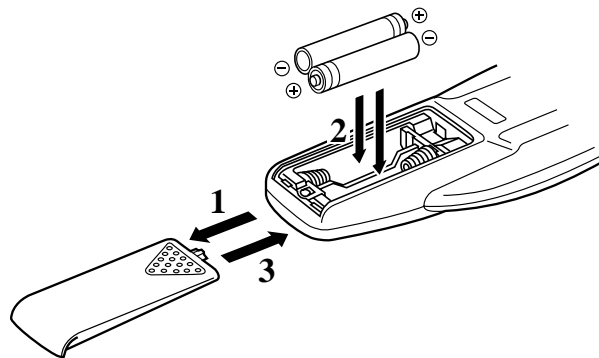
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。また、ストーブのそばや風呂場など温度・湿度の高いところに置かないようご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具（インバータ蛍光灯など）の強い光が当たらないようご注意ください

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、誤動作の原因となります。

電池交換のしかた

- 1 リモコンの裏のふたをはずします。
- 2 単3型 (SUM-3) 乾電池を2個、プラス (+) とマイナス (-) の向きを、表示どおりに正しく確認して入れてください。
- 3 電池をセットしましたらカチッと音がするまでふたを閉めます。



電池交換の時期は？

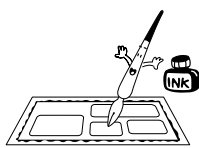
リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

乾電池についてのご注意

- ・ 単3乾電池をご使用ください。
- ・ 新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- ・ アルカリとマンガンなど種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・ 電池のプラス (+) とマイナス (-) を金属片で直接つなぐこと (ショート) はしないでください。
- ・ 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- ・ 万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

保証の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。



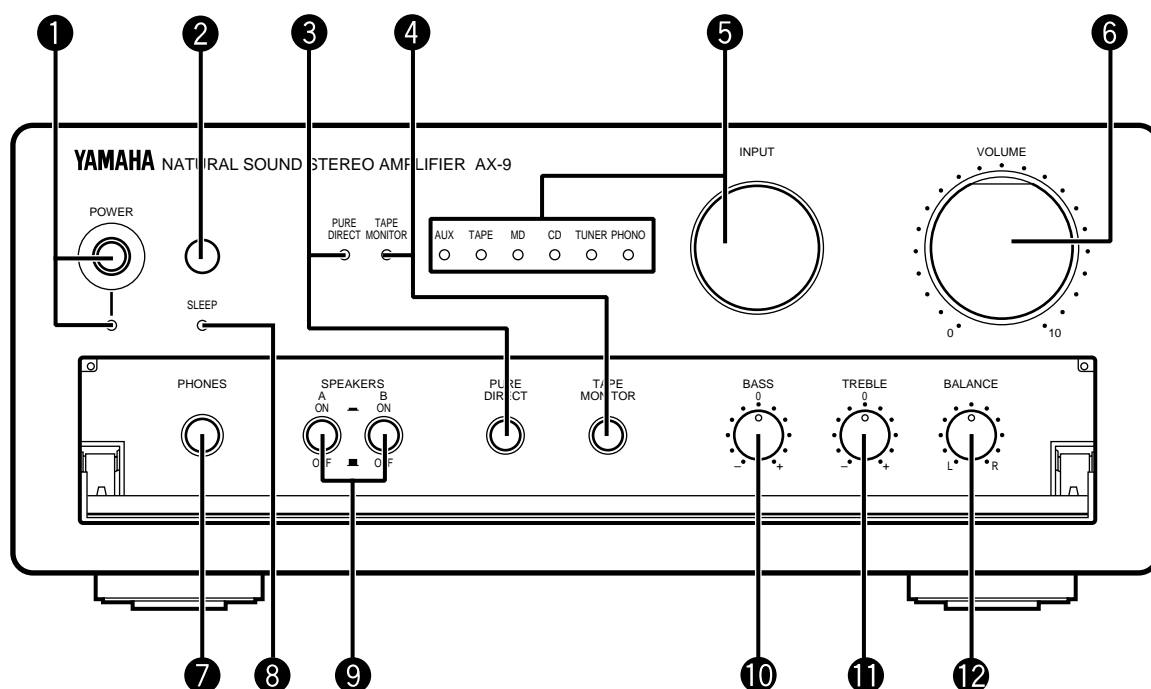
これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いこ心を配り快適な生活環境を守りましょう。

各部の名称とはたらき

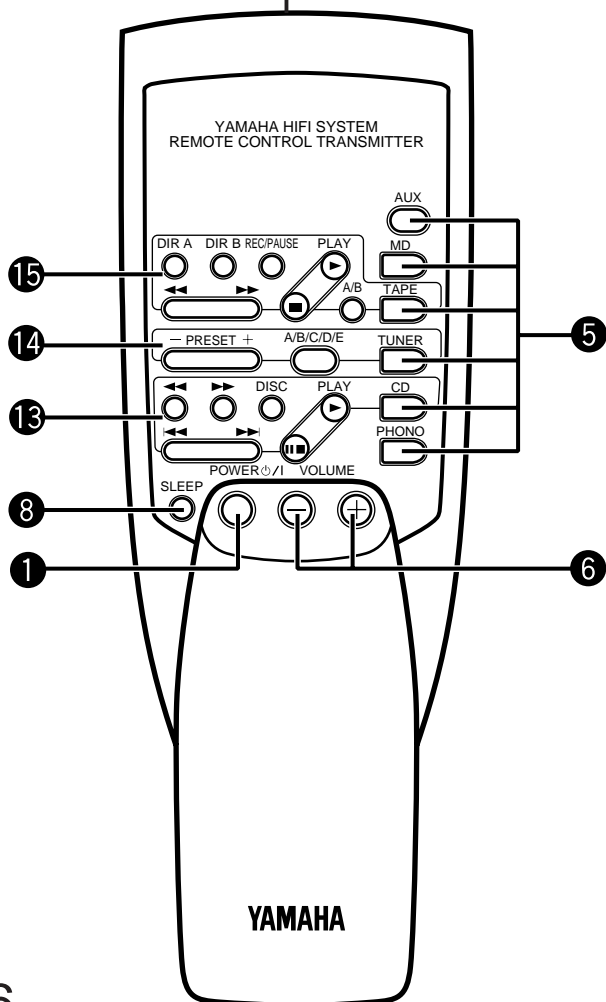
フロントパネル



リモコン

リモコン送信窓

本機のリモコンでヤマハのCDプレーヤー、チューナー、カセットデッキが操作できます。操作するときは、それぞれの機器のリモコン受光部に向けて送信します。



- ① 電源スイッチ / インジケータ (POWER)**
 本機の電源を入 / 切します。電源が入るとインジケータが点灯します。
 電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 (0) にしておいてください。
 電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。
- ② リモコン受光部**
 付属のリモコンからの信号を受ける窓です。
- ③ ピュアダイレクトスイッチ / インジケータ (PURE DIRECT)**
 このスイッチを押すとインジケータが点灯し、インプットセクターで選択されたソースの入力信号がボリュームコントロールのみを通してパワーアンプ部に直結されます。バス、トレブル、バランスの各回路がバイパスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、劣化の少ないよりピュアな音の再生をすることができます。
- ④ テープモニタースイッチ / インジケータ (TAPE MONITOR)**
 このスイッチを押すとインジケータが点灯し、3ヘッドのテープデッキでの録音状態を録音中にチェックできます。
 インプットセクターで選んだソースの再生音を聴くときは、スイッチを押してインジケータを消し、テープモニターを解除してください。

5 インプットセレクター / インジケーター (INPUT)

ツマミを回して再生または録音したいソースを選択します。選択されたソースのインジケーターが点灯します。
PHONO: レコードプレーヤーを再生または録音するとき。
TUNER: チューナー (FM/AM) を再生または録音するとき。

CD: CDプレーヤーを再生または録音するとき。
MD: MDプレーヤーを再生または録音するとき。
TAPE: テープデッキを再生または録音するとき。
AUX: ビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤーなどAUX端子に接続した機器の音を再生または録音するとき。

REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られていると、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

6 ボリュームコントロール (VOLUME)

音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すほど音量が小さくなります。
リモコンでは、“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと小さくなります。

電源スイッチやインプットセレクターなどを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置(0)にしておいてください。

7 ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホンに接続する端子です。
ヘッドホンのみで聴くときは、スピーカースイッチのA、Bを両方とも“OFF”(■)にしてください。
深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。

8 スリープキー / インジケーター (SLEEP)

スリープタイマーを設定・表示します。

9 スピーカースイッチ (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカーシステム (A, B) を選択するスイッチです。Aのボタンを押す(■)とA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押す(■)とB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。A、B両方のボタンを押すとA、B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

10 バスコントロールツマミ (BASS)

低音域を調整するツマミで、右(+)に回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。“0”の位置で特性はフラットになります。
例えば、バスドラムの音などに迫力を出したいときに便利です。

11 トレブルコントロールツマミ (TREBLE)

高音域を調整するツマミで、右(+)に回すほど高音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。“0”の位置で特性はフラットになります。
例えば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

12 バランスコントロールツマミ (BALANCE)

左右のスピーカーの音量バランスを調整するときに使います。ツマミを右(左)に回すと左(右)の音が小さくなります。

13 CD操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

◀◀: 曲の頭に戻ります。
▶▶: 次の曲の頭に進みます。
PLAY ▶: 演奏がスタートします。
■: 1度押すと一時停止し、もう1度押すと演奏が停止します。
◀◀: 早戻しします。
▶▶: 早送りします。
DISC: CDチェンジャーのみに対応します。押すたびにディスク番号が変わり、表示された番号のディスクが選ばれます。

詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

14 チューナー操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。
A/B/C/D/E: プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。
PRESET: プリセットされた放送局を選局します。
詳しくは、チューナーの取扱説明書をご覧ください。

15 テープデッキ操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。
A/B: ダブルデッキのデッキAとデッキBの選択をします。
DIR A: デッキAのテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)
DIR B: デッキBのテープ走行方向を選択します。
PLAY ▶: 再生または録音をスタートします。
■: 再生または録音を停止します。
◀◀: ◀◀方向に早送りします。
▶▶: ▶▶方向に早送りします。
REC/PAUSE: 録音一時停止状態になります。
詳しくは、テープデッキの取扱説明書をご覧ください。

接続のしかた

接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてからおこなってください。

接続する機器によっては端子名が異なることがあります。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

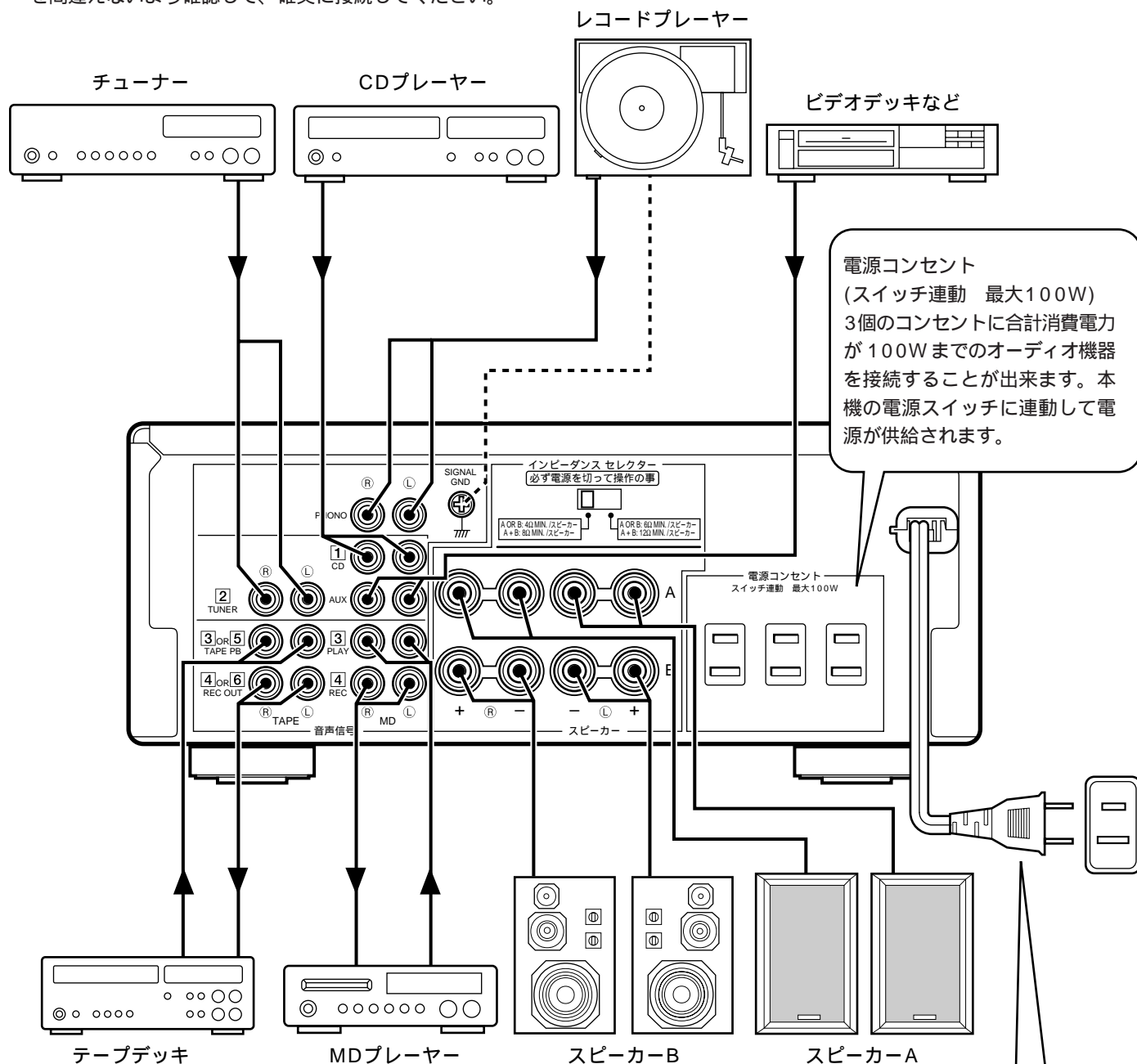
入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。

接続するときは、各機器のL(左チャンネル)、R(右チャンネル)を確認し、また、スピーカー接続の場合は、極性(+、-)を間違えないよう確認して、確実に接続してください。

接続に誤りがないことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。

本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与える場合は、本機とそれらの機器を影響の出ない距離まで離してください。

本機をヤマハCDX-9、TX-10、KX-10とシステム接続する場合は、各機器と本機と同じ番号のついた端子どうしを接続してください。

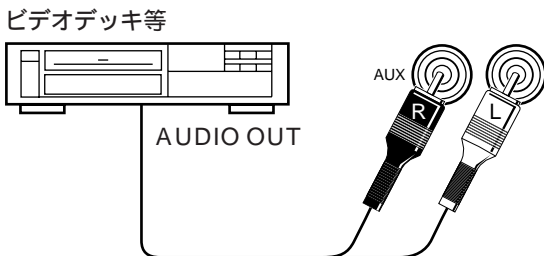
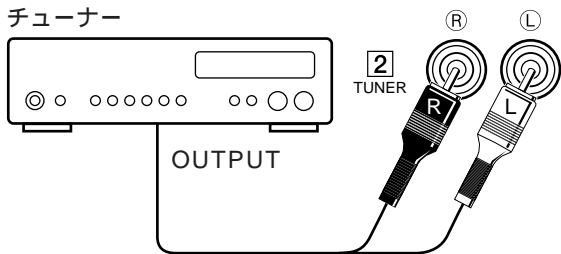
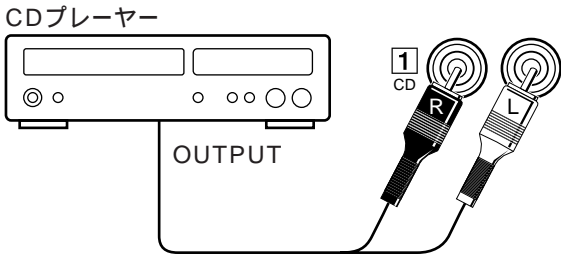


電源コンセント
(スイッチ連動 最大100W)
3個のコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器を接続することができます。本機の電源スイッチに連動して電源が供給されます。

電源コード
電源プラグはAC100Vの家庭用コンセントに接続してください。
本機の消費電力はインピーダンスセレクターを“A OR B: 4 MIN./スピーカー”側に設定したときは100W、“A OR B: 6 MIN./スピーカー”側に設定したときは120Wです。
本機の電源コードには、極性表示(電源トランスの巻き始め側を電源コードに白いラインで表示)がされています。コンセントの長い穴に白いライン側を差し込んでください。極性を差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

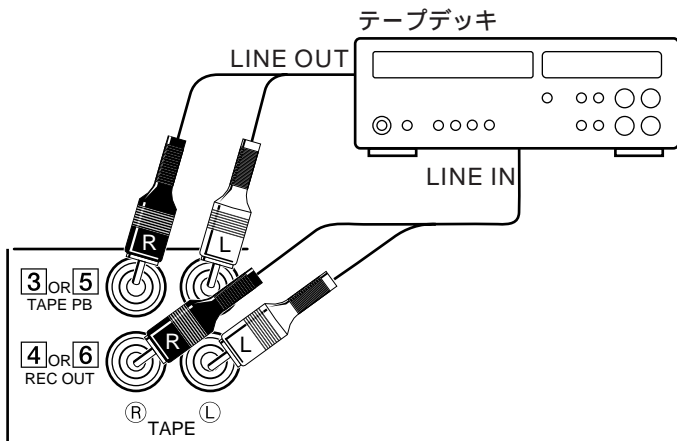
CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CDプレーヤーは CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力は AUX 端子に、それぞれ L、R を正しく確実に接続します。



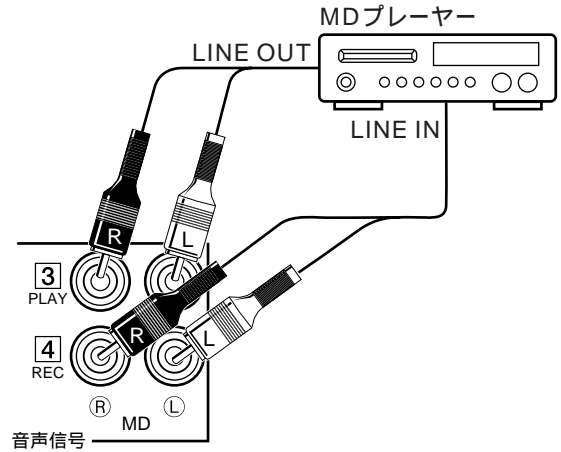
テープデッキの接続

デッキの LINE OUT (PLAY) 端子を本機の TAPE PB 端子に、デッキの LINE IN (REC) 端子を本機の REC OUT 端子にそれぞれ L、R を正しく接続します。



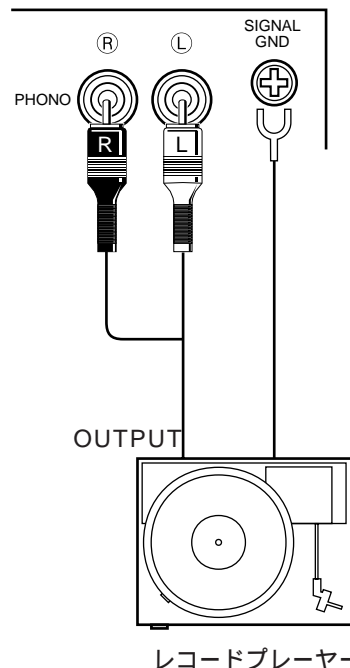
MDプレーヤーの接続

MDプレーヤーの LINE OUT (PLAY) 端子を本機の PLAY 端子に、MDプレーヤーの LINE IN (REC) 端子を本機の REC 端子にそれぞれ L、R を正しく接続します。



レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子に L、R を正しく接続します。アース線は SIGNAL GND 端子に接続します。レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を SIGNAL GND 端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。SIGNAL GND 端子はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。安全アースではありません。



接続のしかた

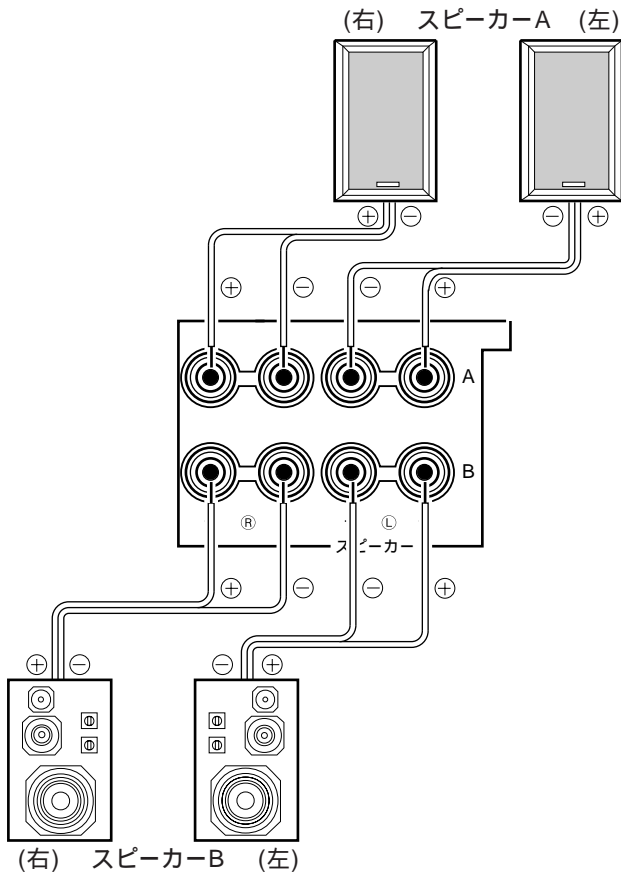
スピーカーの接続

スピーカーAのR側端子に右側スピーカーを、L側端子に左側スピーカーを接続します。

アンプの“+”端子からスピーカーの“+”端子へ、アンプの“-”端子からスピーカーの“-”端子へ極性を合わせてスピーカーコードを接続します。

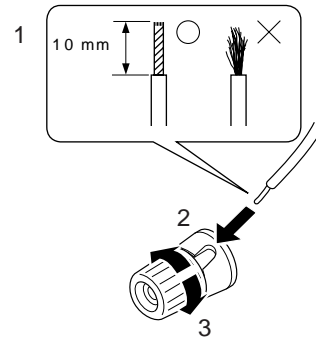
スピーカーBにも、スピーカーAと同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。

左右の接続や極性を間違えると、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となります。



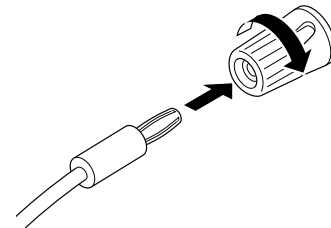
スピーカーコードの処理とつなぎかた

- 1 スピ-カ-コ-ドの先端の絶縁部を10mm位はがし、芯線がバラけてショ-トしないよう、指でしっかりよじります。
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめ、スピーカーコードをスピ-カ-端子の穴に差し込みます。
- 3 スピーカー端子を右に回して締めつけます。芯線部分が穴からはみ出ていないかどうかを確認してください。



バナナプラグの場合

バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。



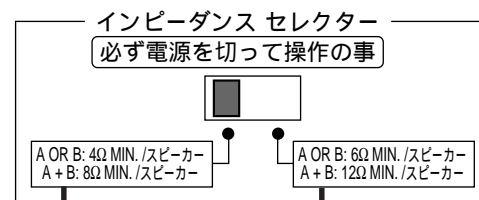
インピーダンスセクターの切り換え

スピーカーシステムのインピーダンスに合わせて背面のインピーダンスセクターを切り換えます。正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となるので注意してください。

必ず電源を切った状態で切り換えてください。

セクターは右側または左側にしっかり寄せてください。

中途半端な位置にすると、電源が入らなったり電源が切れてしまうことがあります。



左側に設定する場合

スピーカー A、B 単独使用：
インピーダンスは 4 以上
スピーカー A、B 同時使用：
各インピーダンスは 8 以上

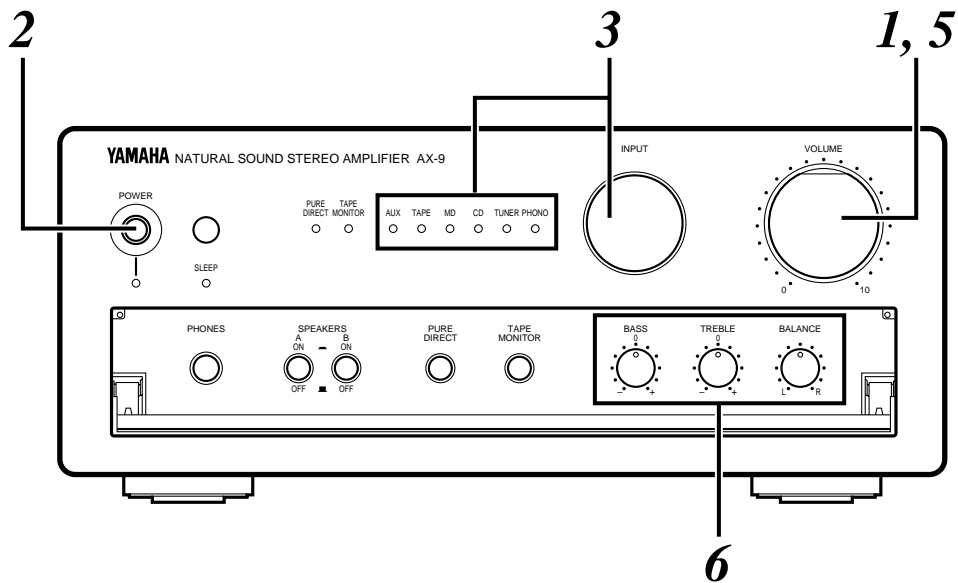
右側に設定する場合

スピーカー A、B 単独使用：
インピーダンスは 6 以上
スピーカー A、B 同時使用：
各インピーダンスは 12 以上

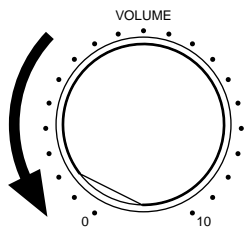
ご注意

A、B 単独で 3 以下、A、B 同時使用で 7 以下のスピーカーは使えません。

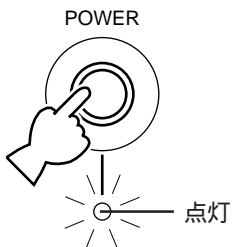
操作のしかた（再生する）



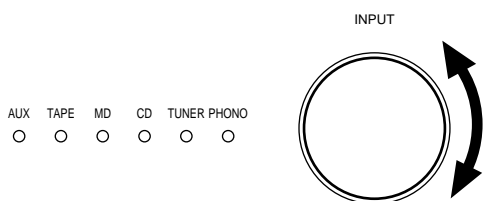
- 1** 本機のボリュームコントロールを“0”（最小）に合わせます。



- 2** 本機、ならびに各機器の電源スイッチを入れます。



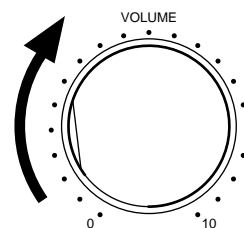
- 3** インプットセレクターを回転して、再生したいプログラムソースを選択します。



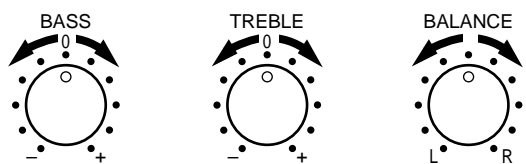
選択されたソースのインジケータが点灯します。

- 4** インプットセレクターで選択したプログラムソースを再生します。
再生のしかたはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

- 5** ボリュームコントロールで音量を調節します。



- 6** お好みに応じてバス、トレブル、バランスで音質やバランスを調節してください。

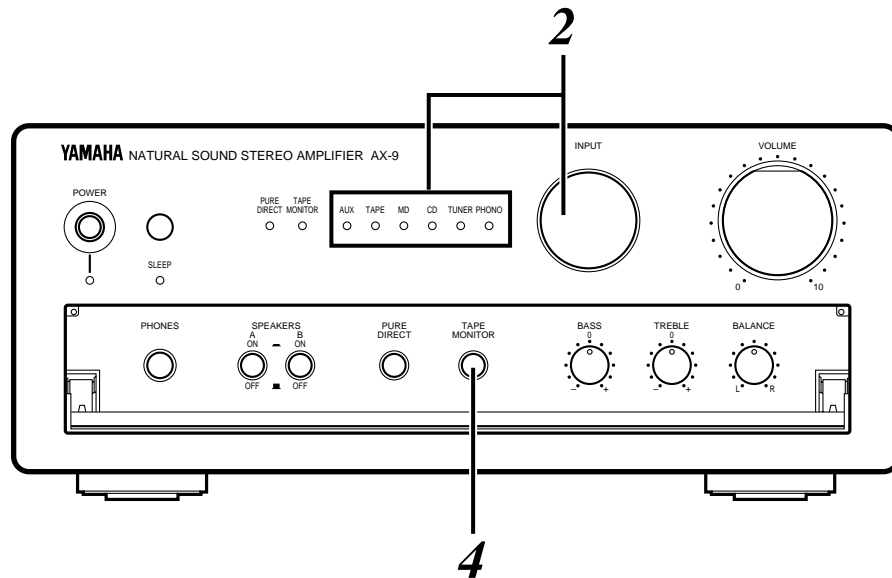


本機の電源を切るには
もう一度電源スイッチを押します。

操作のしかた（録音する）

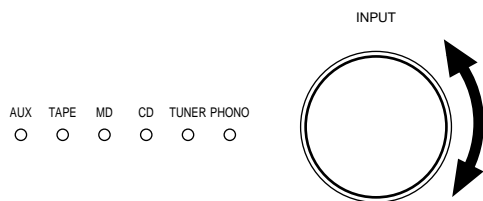
本機は、インプットセクターで選んだ入力ソースをそのまま REC OUT 端子に出力するため、録音するための操作を本機側で行うことはありません。

録音レベルの調整は、テープデッキまたはMDプレーヤー側で行います。ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。



1 11ページ「再生する」の手順1、2と同じ操作をします。

2 インプットセクターを回転し、録音したいプログラムソースを選択します。



選択されたソースのインジケーターが点灯します。

3 テープデッキまたはMDプレーヤーを操作して録音を開始すると同時に、録音するプログラムソースの再生を始めます。

4 3ヘッドのテープデッキでの録音をモニターする場合は、テープモニタースイッチを押します。



再生音を確認するときは、ボリュームコントロールで音量を調節します。

ご注意

本機の電源を切ると、接続した機器間の録音はできません。録音する際に、同一ソースの録音はできません。（例：TAPE PB端子から入った信号は、REC OUT端子には出力されないため録音することはできません。）

録音中に、ボリューム、バス、トレブル、バランスの調節や、ピュアダイレクトの設定をしても、録音には影響しません。

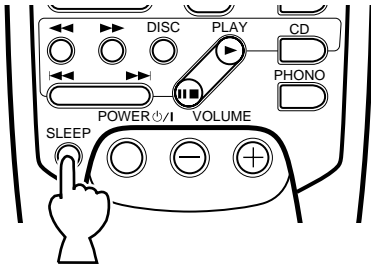
スリープタイマー

60分経過すると電源が切れるので、聴きながらおやすみになります。
リモコンで操作します。

1 再生します。

本機背面の電源コンセントに接続した機器（ソース）を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

2 スリープキーを押します。



スリープタイマーは60分に設定され、60分後に電源が切れます。
スリープタイマーが設定されると、本体のスリープインジケータが点灯します。

スリープ動作を途中でやめるには
スリープキーを押して、本体のスリープインジケータを消します。

電源スイッチを押して電源を切ると
スリープタイマーは解除されます。

タイマー再生のしかた

本機を市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生をすることができます。

接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機背面の電源コンセントにタイマー再生する機器の電源プラグを接続します。

本機に接続する機器の消費電力の合計が、電源コンセントの供給電力(100W)を越えないようにご注意ください。

操作のしかた

- 1 すべての機器の電源を入れます。
- 2 本機のインプットセクターで、タイマー再生する機器を選択します。
- 3 本機のボリュームを適当な音量に調整します。
- 4 タイマー再生の開始時間(必要ならば終了時間も)をオーディオタイマーでセットします。設定した時間になるとタイマー再生が開始されます。

オーディオタイマーや再生する機器の操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
電源が切れてしまい、POWERスイッチを押しても電源が入らない。	背面のインピーダンスセレクターの位置がずれている。	インピーダンスセレクターを右側または左側に正確にセットしてください。
音が出ない。	再生したいプログラムソースのインプットセレクターが正しく選択されていない。	再生したいプログラムソースのインプットセレクターを選択してください。
	スピーカースイッチがOFFになっている。	スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子を選択してください。
	接続が不完全。	接続を確認してください。
片チャンネルの音がでない。	バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている。	バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください。
	接続が不完全。	接続を確認してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	スピーカーの接続でLとRや極性(+、-)が合っていない。	スピーカーのLとRや極性(+、-)を正しく接続しなおしてください。
ハム音ができる。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない。	アースコードを本機の SIGNAL GND 端子に接続してください。
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらなかったり音がひずんだりする。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源が切られている。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源を入れてください。
演奏しているときバスコントロールツマミ、トレブルコントロールツマミがはたらかない。	ピュアダイレクトスイッチが入っている。	ピュアダイレクトスイッチを押してインジケータを消してください。
リモコン操作ができない。	乾電池が消耗している。	乾電池を2本とも交換してください。
	リモコンの操作距離、角度が不適當。	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください。
	リモコン受光部に強い日光や照明(インバータ蛍光灯など)が当たっている。	受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください。

参考仕様

定格出力

6 (20 Hz~20 kHz, 0.03% THD) 60 W+60 W

ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)

インピーダンスセクター: 6 MIN.設定

8 /6 /4 /2 78 W/88 W/100 W/112 W

パワーバンド幅 (0.06%THD, 25W/8) 10 Hz~40 kHz

実用最大出力 (EIAJ)

1kHz, 10%THD, 6 84 W

ダンピングファクター (20 Hz~20 kHz, 8) 80 以上

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM 2.5 mV/47 k

CD/TUNER/AUX/TAPE/MD 150 mV/47 k

最大許容入力 (1 kHz, 0.04% THD)

PHONO MM 90 mV

出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT 150 mV/800

ヘッドホン出力/出力インピーダンス (20 Hz~20 KHz)

0.03% THD, RL=8 0.4 V/390

周波数特性 (20 Hz~20 kHz)

CD/TUNER/AUX/TAPE/MD 0 ± 0.5 dB

RIAA 偏差 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MM 0 ± 0.5 dB

全高調波歪率 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MM REC OUT 0.02%

CD/TUNER/AUX/TAPE/MD SP OUT (25W/8) 0.02%

SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)

PHONO MM (5 mV) 82 dB

CD (150 mV) 105 dB

チャンネルセパレーション (VOL - 30 dB, 1kHz)

PHONO MM (0) 60 dB

CD/TUNER/AUX/TAPE/MD (5.1 k) 60 dB

トーンコントロール

BASS

可変幅 ± 10 dB /50 Hz

ターンオーバー周波数 350 Hz

TREBLE

可変幅 ± 10 dB/20 kHz

ターンオーバー周波数 3.5 kHz

定格電源電圧、周波数 AC 100V, 50/60 Hz

消費電力

インピーダンスセクター: 4 MIN.設定 100 W

インピーダンスセクター: 6 MIN.設定 120 W

電源コンセント (スイッチ連動) × 3 ... トータル 最大 100 W

外形寸法 (W×H×D) 280×118.5×388.5 mm

重量 6.1 kg

付属品 リモコン

単 3 乾電池 2 本

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 参考仕様および外観は予告なく変更されることがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修性能部品の最低保有期間

補修性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境或使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口

AVお客様ご相談センター

TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100

東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488 - 6625

浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)汗里丘センター内
TEL (06) 877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (0878) 22 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズが変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA